

令和7年度 滋賀県立大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 点検・評価について（案）

プログラムの自己点検・評価を行う組織

全学共通教育推進機構内部質保証推進実施委員会

番号	項目	点検結果	評価
1	プログラムの履修・修得状況	本プログラムを構成する「情報リテラシー（情報倫理を含む）」「情報科学概論」は全学共通の必修科目であり1年生全員が受講している。学生ポータルサイトUSPo等を用いて出席管理を行っており、講義の出席率は高い水準を維持している。令和6年度の上記2科目の単位修得率は98.1%であり、大多数の学生がプログラムを修了している。	A
2	学修成果	授業の中間および期末に行われる授業アンケートにより学修成果の把握を行っている。アンケート項目の「あなたは、この授業の到達目標を達成できたと思いますか」という問いに対し、かなりできた・ある程度できたと回答した学生が多数であり、十分な学修成果が得られている。	A
3	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	授業の中間および期末に行われる授業アンケートにより理解度の把握を行っている。アンケート項目の「あなたは、この授業についてどの程度理解できましたか」という問いに対し、かなり理解できた・ある程度理解できたと回答した学生が多数であり、学生が授業内容を理解していることが確認できる。	A
4	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生のへの推奨度	授業アンケート「この授業を受講して、その分野や内容を今後も継続して勉強してみたいと思いましたが」とおよび「この授業は、"学位授与方針との対応"に関する能力と関連した科目内容でしたか」という問いに対し、とてもそう思う・ややそう思うと回答した学生が多数であった。これらの内容から、学生は本プログラムで得た知識をさらに深め、学部学科の専門科目へ活用することを意識しており、これから同じ専門分野を学ぶ後輩等他の学生への推奨度も高いことが伺える。	A
5	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムを構成する「情報リテラシー（情報倫理を含む）」「情報科学概論」は全学共通の必修科目であり1年生全員が受講している。	A
6	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは令和6年度入学生から適用するものとして開始しているため、本プログラムを修了し卒業した学生はまだいないが、今後、卒業生アンケート等での評価を検討している。	A
7	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容手法等への意見	本プログラムは令和6年度入学生から適用するものとして開始しているため、本プログラムを修了し卒業した学生はまだいないが、今後は本プログラム修了者の就職先企業で情報系・情報関連企業等を対象に企業向けアンケート等を行い、教育プログラムの内容手法等への意見聴取を検討している。また、プログラム申請時にコンソーシアムブロック代表校へ本学プログラムへの意見聴取を行い、各学部に合わせて内容としながらモデルカリキュラムを網羅していると評価いただいた。	A
8	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	前年度同様、数理・データサイエンス・AIに関する新しい知識を学ぶことによって問題を解決する楽しさを経験させることや現実の問題に役立つスキルを身につけさせることを意識した講義を心がけている。実際のデータや事例、例えば政府統計の総合窓口（e-Stat）から取得したデータや国連が提供している人口統計データ等を用いて統計処理をさせたり、生成AIやGoogle検索エンジンの仕組みを説明するだけではなく、生成AIを利用した演習を交え学生に興味を持たせるような授業展開を心掛けている。	A
9	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	数理・データサイエンス・AIモデルカリキュラムを踏まえた授業の目的と内容を設定している。図やイラスト、具体例を交えた教材を使用しつつ、基本的な概念から応用まで、段階的に授業を進めている。特に実際のデータを利用した統計処理から分析結果をレポートしてまとめさせる場合には、見本となるレポートを提示し、学生の取り組みが進むよう配慮している。また一部の教員はクイズ形式の小テストを実施することにより学習の定着を促進している。授業内容の解説にあたっては、資料の表面的な説明にとどまらず、歴史的な経緯も含めた説明をし、取り扱った内容をより分かりやすくするよう改善を行っている。	A